

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 9 日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2022

課題番号：16K02461

研究課題名(和文)トマス・マロリー『アーサーの死』の出版史から探る18、19世紀英国の中世主義

研究課題名(英文)Malory's Morte Darthur and Medievalism in 18th- and 19th-century Britain

研究代表者

不破 有理 (FUWA, Yuri)

慶應義塾大学・経済学部(日吉)・教授

研究者番号：60156982

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：19世紀英国の中世主義復興の要因の一つはアーサー王伝説の復活である。トマス・マロリーの『アーサー王の死』はアルフレッド・テニスの新たなアーサー王物語詩を生み、今なお日本のサブカルチャーにも影響を与えている。本研究は1816年版『アーサー王の死』のウィルクス版とウォーカー版を、実験書誌学によって特定された判型から印刷時間を割り出し、出版競争を明らかにし、1816-1817年に3種のテキストが刊行された出版の謎を解明した。未刊行書簡や伝記的史料を発掘し、印刷業者をロバート・ウィルクスと特定し、その半生を再構築し、編集者ジョセフ・ヘイスルウッドの功績をパラテキスト的要素からも初めて評価した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

『アーサー王の死』の復刻版刊行(2017年)は、これまで入手困難な貴重書を参照可能なテキストとして世に送り出した。これにより、アーサー王伝説復興の重要なテキストを研究者が直接手に取ることを可能とし、マロリー学研究的将来の可能性を広げた点で社会的な意義がある。さらに解説では新たに書物学的側面から1816年版のウィルクス版とウォーカー版の詳細な分析を行い書誌学上の発見をし、マロリー書誌学の修正に貢献した。また未刊行資料の発掘と分析によって、1816年ウィルクス版印刷業者を特定し、その半生を再構築・活写した。事例研究を通して、19世紀初頭ロンドンの印刷工房の生業と書籍業界の社会史に貢献したといえる。

研究成果の概要(英文)：The Arthurian Revival was a major driving force behind the Medieval Revival in nineteenth-century Britain. Sir Thomas Malory's *Morte Darthur* played a crucial role in this cultural resurgence, even inspiring modern Japan. My research focuses on the sudden appearance of three editions of the text in 1816 and 1817, after an approximately two-century gap since the Stansby edition of 1634. Through examining unexplored historical documents and conducting bibliographical analysis of the Walker and Wilks editions, I have uncovered a rivalry between their printers, editors, and publishers, all competing for the "editio princeps" of Malory's work. Additionally, my research reveals the previously unknown identity and life of Robert Wilks, the printer, and Joseph Haslewood's unique contributions as the editor of the Wilks edition to Malory scholarship in nineteenth-century Britain.

研究分野：アーサー王文学 トマス・マロリー『アーサー王の死』出版史

キーワード：トマス・マロリー 『アーサー王の死』 19世紀英国出版史 アーサー王文学 中世主義 Robert Wilks Joseph Haslewood William Caxton

1. 研究開始当初の背景

トマス・マロリー作『アーサー王の死』(1485年刊行)はアーサー王物語の主要テキストとして英文学史の地位を確立している。しかしながらマロリーのテキストの出版史上には1634年から1816年の空白の時代が存在する。1816年に忽然と『アーサー王の死』が2版、ウィルクス版とウォーカー版が異なる出版社から刊行され、翌1817年にはサウジー版が上梓される。なぜ2世紀近くもマロリーの作品は出版されなかったにもかかわらず、立て続けに出版されることになったのか。この素朴な疑問が研究の始まりとなった。19世紀英国は中世主義勃興という文化社会現象が現れることでも知られる。中世復興への鍵を探るべくマロリーの『アーサー王の死』に注目し、テキスト出版はアーサー王復興の起爆剤の役割を負うことになるのである。

2. 研究の目的

本研究の当初の目的は、どのようにマロリー作品が復活し、19世紀のアーサー王伝説の復興を促し、さらに英文学における正典化に至ったのかを、作者トマス・マロリーとマロリー作品『アーサー王の死』、印刷業者ウィリアム・キャクストンへの評価の変遷を辿りつつ、出版史と中世主義の心性の形成の観点から分析・考察し明らかにすることであった。

3. 研究方法

マロリーの『アーサー王の死』の復活の様相を辿るためには、アーサー王への関心の有無、さらに中世以来評価が分かっていた作者・作品・印刷業者三者への再評価の有無が指標になると考えた。本研究は、調査期間を区分し5段階で18世紀初頭から19世紀までの復活の行程を分析する予定であった。しかしながら、研究期間中にコロナ禍が始まり、海外での文献調査が不可能となり、国際アーサー王学会も中止となったため、研究予定と範囲に変更が生じた。

研究の中心を資料が確保済みまたは確保可能な1816年版と1817年版の分析に据え、研究の契機となったこれらのテキストの出版の謎を解明することに傾注した。書誌学的手法を駆使し、類似した外見のウォーカー版とウィルクス版の判型を特定し、当時の植字速度、印刷用紙、印刷機、印刷技術などを分析した。判型の違いによる印刷速度の差異を算出し、印刷の開始時期を推定、その結果から両版の出版競争の謎を技術面から解明する糸口を探った。また技術面の差異を探る一助とするために、両版の印刷業者としての評価や伝記情報、出版情報なども収集活用に努めた。

並行してヴィクトリア朝の中世復興の事例分析としては、アルフレッド・テニスの「シャロットの女」と夏目漱石の「菴露行」の比較研究(コロナ禍による渡航制限以前にはヘブライ大学でのワークショップに参加)、アーサー王文学の復興につながるマロリー以外の中世文学のテキストの出版状況を蔵書競売目録や初期英語文献刊行協会の出版リスト他、デジタル・アーカイブやデータベースで収集し調査し考察対象とした。

4. 研究の成果

(1) 『アーサー王の死』への関心の萌芽を探るために、『アーサー王の死』の印刷業者ウィリアム・キャクストンへの評価の変化を 18 世紀初頭の文献から探った論考をまとめた。2016 年国際アーサー王学会英国支部で発表の上、論文 “Paving the Way for the Arthurian Revival--William Caxton and Sir Thomas Malory’s King Arthur in the Eighteenth Century” は 2017 年国際アーサー王学掲会学会誌 *Journal of the International Arthurian Society* に掲載された。幸い、参照件数が多い論文となった。

(2) 1816 年の両版と 1817 年版の『アーサー王の死』の復刻版を『アーサー王物語の集大成：サー・トマス・マロリーの『アーサー王の死』(Sir Thomas Malory, *Morte Darthur*, 1485 年) Walker 版 (1816 年) Wilks 版 (1816 年) Southey 版 1817 年』としてエディション・シナプスから 2017 年に刊行した。解説編を冊子として日英両語で準備・出版し、準備の過程で、多くの新たな知見を得ることができ、本研究の重要な展開点となった。一見、類似した小型ポケット判のウォーカー版とウィルクス版は判型が異なることを発見し、その結果、印刷を先行させていたウィルクス版をウォーカー版が追い越し刊行できることを世界で初めて証明し、両者間の出版競争の謎を解明することができた。英文解説編はアーサー王関係の研究者から高い評価を得て、復刻版は海外では Routledge が販売している。

(3) 研究期間中に開催された 2 本のシンポジウムは本研究を推進することになった。2019 年 12 月国際アーサー王学会日本支部年次大会において「_Morte Darthur_ 完成 550 年記念シンポジウム Malory in Japan - 日本では近年どのような Malory 研究がなされてきたか - 」が開催され、筆者は「本の声を聴く Globe 版から 1816 年版の判型特定へ - 」と題した発表を行った。サー・トマス・マロリー『アーサー王の死』の 19 世紀における出版史が要となる本研究課題を遂行するにあたり、これまで海外の図書館で収集した未発表資料も活用して構成した。発表は書誌学的成果を特に高く評価され、国際学術誌 *POETICA: An International Journal of Linguistic-Literary Studies* の 2021 年秋 96 号に論文 “Making Malory ‘readable’ in the Victorian period: Frederick James Furnivall and Sir Edward Strachey” が掲載された。2022 年開催の第 94 回日本英文学会第 5 部門シンポジウム (2022 年 5 月 21 日オンライン開催) を「サー・トマス・マロリー『アーサー王の死』のテキスト変容 印刷・出版・読者の視点から眺める 500 年の歴史」と題し、司会として企画し、発表者を兼ねた。発表は「本の声を聴く 19 世紀『アーサーの王の死』出版における「繕いの編集術」 」と題し、国際学術誌 *POETICA: An International Journal of Linguistic-Literary Studies* に論文 “Title Matters: From William Caxton to Joseph Haslewood; colophons, titles, and editions of Malory’s *Morte Darthur*” (2023 年 97&98 合併号) が掲載された。本論文では (2) の論考をさらに進め、ウォーカー版と 1817 年のサウジー版の出版者がロングマンであったことに着目し、出版競争の要を握っていた可能性が高いことをロングマン・アーカイブの精読およびロクスバラクラブをめぐる愛書家たちとの関係から跡付け、読み解いた。

(4) 出版競争の勝敗を分けた理由を考察する中で、敗者となったウィルクス版印刷業者ロバート・ウィルクスについての調査を 2 本の論文にまとめた。2021 年と 2023 年に「『アーサー王の

死』(1816年)の印刷者 Robert Wilks 未刊行資料から伝記的再構築の試み」と題して、『慶應義塾大学日吉紀要英語英米文学』の74号と77号に発表した。この論考によって、おそらく世界で初めてロバート・ウィルクスの伝記的事実が明らかになり、印刷機の発明と技術の実用化がしのぎを削った1810年代において、ロンドンの印刷工房の実相を照射できた。

(5)2019年10月に日本ケルト学会のフォーラム・オン「ルナン、アーノルド、イエイツ近代ケルト概念の源流を探る」において発表した「マシュー・アーノルド『ケルト文学の研究について』:その成立と人種論における意義」を発展させ、現代も流布するケルト観がどのようにイングランドにおいては形成されたのかを考察した。ブルターニュのエルネスト・ルナンの『ケルト諸人種の詩歌』を引継ぎつつ、アーノルドによって、現代のステレオタイプ的な「ケルト観」がいかに形成されたのか、当時の出版文化と関連づけて解き明かすことに寄与し、本稿は2023年刊行予定の日本ケルト学会編の書籍『ケルト学の現在』に掲載予定である。

(6)サー・トマス・マロリー『アーサー王の死』の19世紀におけるテキスト出版史を印刷・編集・出版・読者論の視点から、あらためてアーサー王伝承が現代まで語り継がれているのはなぜなのか、これまで発表してきた論文を改訂拡充し執筆、ウィルクス版と同じくポケット判の装丁の書物として以下の書物にまとめることができた。『「アーサー王物語」に憑かれた人々 19世紀英国の印刷出版文化と読者』(慶應義塾大学教養研究センター選書、2023年刊行)

本研究の当初の目的に掲げていた前半部分は、以上のような成果をまとめることが叶った。今後は19世紀のアーサー王伝説の復興を促し、さらに英文学における正典化に至ったのかについて、19世紀の『アーサー王の死』の出版史と中世主義の心性の形成の観点から分析・考察を続け、2021年から開始した基盤研究(C)に接続してまとめる予定である。国内外での書籍化を目指したい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Yuri FUWA	4. 巻 97 & 98 合併号
2. 論文標題 Title matters: From Caxton to Joseph Haslewood; colophons, titles, and editions of Malory's Morte Darthur	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 POETICA: An International Journal of Linguistic-Literary Studies	6. 最初と最後の頁 73-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yuri FUWA	4. 巻 95 & 96 合併号
2. 論文標題 Making Malory "readable" in the Victorian period: Frederick James Furnivall and Sir Edward Strachey	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 POETICA: An International Journal of Linguistic-Literary Studies	6. 最初と最後の頁 113-131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 不破有理	4. 巻 74
2. 論文標題 『アーサー王の死』(1816年)の印刷者Robert Wilks 未刊行資料から伝記的再構築の試み(その1)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『慶應義塾大学日吉紀要英語英文学』	6. 最初と最後の頁 1-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 不破有理	4. 巻 77
2. 論文標題 『アーサー王の死』(1816年)の印刷者Robert Wilks 未刊行資料から伝記的再構築の試み(その2)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『慶應義塾大学日吉紀要英語英文学』	6. 最初と最後の頁 95-141
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yuri FUWA	4. 巻 -
2. 論文標題 Curtana, ' Monjoie ' to Clarente? : Notes on the Sword of Mordred in the alliterative Morte Arthure	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Si est tens a fester; Hommage a Philippe Walter	6. 最初と最後の頁 90-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yuri FUWA	4. 巻 7 no.1
2. 論文標題 Aya SHIMIZU in Female Arthurian Scholars: An Initial Collection of Tributes	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of the International Arthurian Society	6. 最初と最後の頁 33-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/jias-2019-0002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 不破有理	4. 巻 14
2. 論文標題 「読み易くすること」 読者層の拡大とグローブ版『アーサー王の死』が希求した改竄	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 書物學	6. 最初と最後の頁 25-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yuri FUWA	4. 巻 5
2. 論文標題 Paving the Way for the Arthurian Revival: William Caxton and Sir Thomas Malory 's King Arthur in the Eighteenth Century	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of the International Arthurian Society	6. 最初と最後の頁 59-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/jias-2017-0005	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 不破有理	4. 巻 -
2. 論文標題 作者・編集者・出版者・読者のしなやかな境界 サー・トマス・マロリーの『アーサー王の死』のテク スト改変の歴史	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 書物の境界	6. 最初と最後の頁 57-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 不破 有理	4. 巻 68
2. 論文標題 Does Format Matter? トマス・マロリー『アーサー王の死』1816年版Walker editionの判型を解説する	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 慶應義塾大学日吉紀要英語英米文学	6. 最初と最後の頁 1-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計6件(うち招待講演 5件/うち国際学会 2件)

1. 発表者名 不破有理
2. 発表標題 本の声を聴く 19世紀『アーサー王の死』出版における「織いの編集術」
3. 学会等名 第94回日本英文学会全国大会シンポジウム(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 不破有理
2. 発表標題 マシュー・アーノルドの『ケルト文学の研究について』: その成立と当時の人種論における意義
3. 学会等名 第39回日本ケルト学会全国大会フォーラム・オン「ルナン、アーノルド、イエイツ 近代ケルト概念の源流を探る」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 不破有理
2. 発表標題 本の声を聴く Globe版から1816年版の判型特定へ -
3. 学会等名 国際アーサー王学会日本支部年次大会「Morte Darthur完成550年記念シンポジウム」Malory in Japan - 日本では近年どのようなMalory研究がなされてきたか - (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 不破有理
2. 発表標題 Ladies of Shalott in Soseki 's Multicultural Labyrinth, Kairo-ko (1905)
3. 学会等名 Department of English, Hebrew University of Jerusalem, a seminar of "Mirroring the Mystery: The Lady of Shalott in Britain and Japan" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 不破有理
2. 発表標題 The Once and Future King 伝説と歴史と物語が紡ぐアーサー王の世界 : Sir Thomas Malory, _Le Morte Darthur_の出版史から
3. 学会等名 同志社大学英文学会年次大会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 不破有理
2. 発表標題 Sir Mordred " the Malebranche ", Renart 's heir?: possible sources for the Alliterative Morte Arthure and its thematic significance
3. 学会等名 The 25th International Arthurian Congress (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 不破 有理	4. 発行年 2023年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 156
3. 書名 「アーサー王物語」に憑かれた人々 19世紀英国の印刷出版文化と読者	

1. 著者名 Yuri FUWA	4. 発行年 2022年
2. 出版社 CEMT EDITIONS	5. 総ページ数 220
3. 書名 Si est tens a fester, Hommage a Philippe Walter Etudes reunies par Koji Watanabe	

1. 著者名 不破有理, 編者: 岡本広毅、小宮真樹子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 みずき書林	5. 総ページ数 349
3. 書名 「日本初のアーサー王物語: 漱石の「薙露行」とシャロットの女」『いかにしてアーサー王は日本で受容されサブカルチャー界に君臨したか 変容する中世騎士道物語』	

1. 著者名 Yuri FUWA	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Eureka Press/ Edition Synapse	5. 総ページ数 101
3. 書名 Reprinting Malory: Walker, Wilks and Southey in The Morte Darthur: A Collection of Early-Nineteenth-Century Editions	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------